

建設トップランナーフォーラム in 富山

持続可能な社会基盤づくりと地方再生

地方ワークショップ
新しい発見と出会い

建設トップランナーフォーラム

建設業のおかれた厳しい状況と戦いながら、夢をもって新事業へと邁進する建設経営者たちとその支援者の集まりです。建設会社が地域ビジネスを興しながら、同時に社会基盤を担うことが地域再生につながると信じて頑張っています。年に一度の全体会、テーマ別の分科会による研修活動、メール通信やホームページを利用した情報交換などを行い、新しい発見と出会い多様なつながりを構築します。

この度、地方ワークショップでは、観光・地域づくり分科会を中心に開催いたします。建設業、農業、商工業、地域観光等の地域産業が業界の壁を越えて、産学官の連携を図り、自由な発想で力を合わせ地域の活性化の実現への機会となるフォーラムと致します。開催地は開町 400 年を 2009 年に迎える、ものづくり、歴史の町高岡市を開催地と致します。ご協力・ご参加お願い致します。

開催日時 2008年3月8日(土) フォーラム 13:00~17:00 懇親会 18:00 開始
開催場所 ウイングウイング高岡 富山県高岡市末広町1番7号
参加登録 フォーラム 無料 先着 400名

受付 12:30~ 開会 13:00~17:00

開会挨拶 日本青年会議所建設部会

奥田 孝行 部会長

来賓挨拶

【第一部】13:10~

主旨説明 「持続可能な社会基盤づくりと地方再生」

東京工業大学教授・建設トップランナーフォーラム代表幹事

和田 章氏 (10分)

・特別講演 演題予定「これからの地域振興とまちづくり」

(株)JTB 常務取締役

清水 慎一氏(40分)

・事例発表 北海道庁・石川県・富山県

(各 20分)

休憩 (会場受付・ホールにパンフレットセッション 国・県・市町村・事例紹介・各分科会紹介)(10分)

【第二部】15:10~

挨拶 越の国富山ブロック建設クラブ代表

西森 祐一 クラブ代表

・基調講演 演題予定「地域の再生に向けた戦略」

内閣官房地域活性化統合本部事務局長

山本繁太郎氏(40分)

・パネルディスカッション「なるか地方再生～地域ブランドの創出」

(60分)

コーディネーター慶大理工学部教授

米田 雅子氏

パネリスト 山本 繁太郎氏(内閣府地域活性化統合本部事務局長)

清水 慎一氏 (株式会社 JTB 常務取締役)

橘 慶一郎氏 (高岡市長)

菅野 伸一氏 (北海道オホーツク 21 世紀を考える会会長)

閉会挨拶 地域づくり分科会座長(弘前大学院教授)

佐々木純一郎氏

17:00~18:00 休憩 移動

名刺交換会【懇親会】18:00~ 各来賓・各分科会紹介・座長・幹事・世話人紹介 会費 5000円

(開催場所予定 ホテルニューオータニ高岡 富山県高岡市新横町1 TEL0766-26-1111)

主催:建設トップランナーフォーラム 日本青年会議所建設部会 越の国富山ブロック建設クラブ

共催:日本青年会議所建設部会石川ブロック建設クラブ 高岡市 末広開発(株)

(社)日本青年会議所北陸信越地区富山ブロック協議会 (社)高岡青年会議所

後援:国土交通省 富山県 建築技術支援協会 日経コンストラクション 地方建設記者の会 富山県建設業協会

高岡商工会議所 協同組合高岡建設業協会 (社)富山観光連盟 富山県商工会連合会 富山県中小企業

団体中央会 (財)新世紀産業機構 (財)富山コンベンションビューロー 実業建設新報社 北日本新聞社

他各報道局

賛助:北陸建設弘済会



交通案内

JR 高岡駅より徒歩2分。

お車でお越しの方は、高岡市市営駐車場をご利用ください。

駐輪場は、公共施設北側に140台ご用意しております。

富山県 観光案内 <http://kanko.toyamaken.jp/>

高岡市 観光案内 <http://www.city.takaoka.toyama.jp/sangyo/0402/kankou/index.html>

FAX 0766-21-2579 担当 石灰由喜夫 <建設トッランナーフォーラム in 富山>

問い合わせ先 建設トッランナーフォーラム事務局 (〒113-0033 東京都文京区本郷 6-25-14

宗文館ビル3階 NPO 法人 建築技術支援協会 気付)担当 大里茂登子

TEL:03-5689-2911 FAX:03-5689-2912 Mail:info@kentop.org <http://www.kentop.org/>

講演・賛助・分科会問い合わせ先

(社)日本青年会議所 越の国富山ブロック建設クラブ事務局

<http://www.koshinokuni-kensetsu-club.com/Chairperson.htm>

(社)富山青年会議所事務局内(富山県富山市桜木町 10-10 第一ホテル内) TEL076-433-3334 FAX076-433-7333

(社)高岡青年会議所事務局内(富山県高岡市丸の内1-40 商工ビル内) 担当 石灰 由喜夫

TEL0766-21-2534 FAX0766-21-2579 Mail: takaoka-ic@exe.ne.jp

参加者氏名		住所 〒	

企業名・所属団体			

メール	電話	FAX	
_____	_____	_____	
パンフレットセッション	展示物	有 り	無 し
懇親会の参加 (どちらかに を付けてください)		参加する	参加しない
(ホテルニューオータニ高岡 会費 5,000 円)			

宿泊・交通お問い合わせ先

お問合せにつきましては(社)高岡青年会議所事務局(富山県高岡市丸の内1-40 商工ビル内)から旅行代理店をご紹介させていただきます。

推奨宿泊先のご案内 ホテルニューオータニ高岡(懇親会会場) TEL 0766-26-1111 (富山県高岡市新横1)

マンテンホテル高岡駅前 TEL 0766-27-0100 (富山県高岡市末広 1-8)

パンフレットセッション参加

尚、パンフレットセッションに参加の方は事務局まで ご連絡賜れば 当日展示書式をお送りいたします。

講師紹介

基調講演講師 内閣府 地域活性化統合本部事務局長
山本 繁太郎氏(やまもと しげたろう)



地域再生推進のための基本指針

地域活性化関係の4本部(都市再生本部、構造改革特別区域推進本部、地域再生本部及び中心市街地活性化本部)は、地域から見て分かりやすく、より効果的な取組を実施するため、平成19年10月9日の閣議決定により、特段の事情がない限り合同で開催することとし、これを「地域活性化統合本部会合」と称することとしました。また、地域の再生に向けた戦略を一元的に立案し、実行する体制をつくり、有機的総合的に政策を実施していくため、4本部の事務局を統合し、「地域活性化統合事務局」を新たに設置しました。

生年月日 昭和23年11月14日

昭和47.3 東京大学法学部 卒業

56.7 熊本県企画開発部企画課長

60.6 建設省大臣官房人事課長補佐

63.4 同 道路局道路総務課企画官

平成元.6 同 大臣官房文書課企画官

3.6 同 近畿地方建設局総務部長

7.6 同 都市局都市計画課長

11.7 同 大臣官房審議官

13.1 国土交通省大臣官房審議官

14.8 内閣府政策統括官(防災担当)

15.7 国土交通省政策統括

18.7 同 国土交通審議官

19.7 内閣官房都市再生本部事務局長



特別講演講師 株式会社 JTB 常務取締役

清水 慎一氏(しみず しんいち)

1948年生まれ。東京大学法学部卒業。日本国有鉄道に入社、

1987年JR東日本に移行し本社営業部企画課長、東日本キヨスク(株)代表取締役専務(出向)、取締役営業部長、取締役仙台支社長を歴任。仙台においては日本観光協会東北支部長を兼任し、交流人口の増加こそが地域の活性化につながるとの考えで東北各地のまちづくりをリード。特に、小野川温泉、鳴子地区、鎌先温泉、会津地域などの観光地の再生に尽力。2004年2月「YOKOSO! JAPAN THE 祭り東北」の実行委員長等を務める。

2004年6月に(株)ジェイティービー常務取締役(訪日ツーリズム推進担当)に就任。2005年6月に事業創造本部長に就任後、宇宙旅行・ロングステイプランなどの新商品やシニアサマーカレッジなどの地域交流ビジネスを打ち出す。現在は「観光立国、地域活性化」担当。株 ツーリズムマーケティング研究所取締役社長を兼任。

内閣府「地域活性化伝道師」、総合技術会議専門委員、国土審議会計画部会「国土基盤専門委員会」委員、国土交通省「文化観光懇談会」委員、経済産業省「集客交流経営人材の在り方に関する調査研究事業」運営委員会委員、宮城県「宮城の将来ビジョン推進アドバイザー」、青森県新幹線開業対策推進本部アドバイザー、東北地方交通審議会委員、東北圏広域地方計画懇談会委員、ながさき歴史発見発信プロジェクト委員、全国産業観光推進協議会理事、スポーツ健康産業団体連合会理事、とうほく街道会議顧問などとして活動し、地域活性化推進の牽引役として津軽、岩手、大崎、会津など各地域のまちづくりのファシリテーター、全国各地のシンポジウム等の講師を務めるなど幅広く活躍中。



事例紹介

北海道 道庁 過去5年間の支援実績

「北海道地方における 建設業再生に向けて」

北海道経済部商工金融課 主査 田邊弘一氏

富山県 「自然石透水型グレーチング「しんとくん」開発ストーリー」

泉建設株式会社 代表取締役 泉 英之氏

「市民とのまちづくり・みちづくり」

NPO 法人「N プロジェクトひと・みち・まち」

石川県 「「竣工式」をきっかけにイベント分野に進出」

既存顧客のもつ幅広い要望に応える

(株)ビルカン、(株)コムレイド 代表取締役 佐々木 均氏



フォーラム参加者

建設トップランナーフォーラム代表幹事 和田 章 (わだ あきら)

工学博士 東京工業大学 統合研究院 社会開拓研究部門 教授
(兼) 建築物理研究センター 教授
専門分野: 建築構造学・耐震工学・構造設計・免震構造・制振構造・空間構造
主な経歴 (株)日建設計(1970.4~1981.12)
東京工業大学助教授・工学部建築学科(1982.1~1989.10)
米国・ワシントン大学建築学科・客員講師(1984.4~1984.7)
東京工業大学教授・工業材料研究所(1989.11~1996.4)
米国・マサチューセッツ工科大学土木工学科・客員教授(1991.4~1991.7)
東京工業大学教授・建築物理研究センター長(1996.5より、1997.4から現職)
イタリア・カターニア大学客員教授(2000.8)
主な学会歴 日本建築学会 構造委員会委員長(2005~)
日本建築学会 副会長(2003~2005) 日本建築学会 監事(1999~2001)



顧問 米田 雅子(よねだ まさこ)

慶應義塾大学 理工学部 教授
NPO 法人建築技術支援協会常務理事、建設トップランナーフォーラム顧問
内閣府 規制改革会議委員、内閣官房 構造改革特区評価・調査委員
内閣府 地域力再生機構研究会委員、経済産業省 産業構造審議会委員
沖縄県建設産業ビジョン策定委員長、土木学会論説委員等
山口県柳井市生まれ、昭和53年お茶の水女子大学卒業
建設産業、建設産業の新分野進出(農林業含む)、地方活性化、規制改革に関わる研究・支援活動
「建設業残された選択肢 ホンモノの経営してますか」、「建設業からはじまる地域ビジネス」
「日本には建設業が必要です」、「建設帰農のすすめ」
「田中角栄と国土建設」、「NPO法人をつくらう」



地域づくり座長 佐々木 純一郎(ささき じゅんいちろう)

(略歴) 弘前大学大学院地域社会研究科
地域産業研究講座教授
1962年6月、仙台市生まれ。
85年金沢大学経済学部経済学科卒、
88年同大学大学院経済学研究科修士課程修了。
95年大阪市立大学大学院経営学研究科博士(商学)。
93年弘前大学人文学部講師、
95年同大学人文学部助教授、
02年同大学大学院地域社会研究科助教授、
05年同教授

(専門分野・研究概要) 東アジアの経済発展の説明。特に中国経済の分析を中心として、アジア NIES(新興工業国・地域)及び ASEAN(東南アジア諸国連合)の三者の比較から、他地域への経済発展の波及の可能性を考察している。最近では日本と東アジアの国際分業について、企業の国際競争と地域経済の国際化に焦点をあわせ多面的な分析を試みている。



北海道 網走建設業協会会長 管野伸一(かんのしんいち)

オホーツク 21世紀を考える会会長・丸瀬布観光協会会長・知床世界自然遺産登録
株式会社 管野組 代表取締役 管野 伸一
創設 昭和6年3月 設立 昭和43年4月 資本金 5000万円
本社 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布東町 98番地 01584-7-2331 札幌支店 石狩営業所
注文住宅・建売住宅・土木工事・アグリ事業
丸瀬布の生み出した食材、オホーツクの「じゅんさい」を全国の食卓にお届けしています
炭を用いる水質改善 じゅんさい池に2t投入。すくすく成長しています
炭を用いる土壌改良 長さ25mのビニールハウス2棟を使用して完熟トマトを栽培。



高岡市長 橋 慶一郎(たちばな けいいちろう)

生年月日 昭和36年1月23日 略歴 昭和59年3月 東京大学法学部卒業
昭和59年 4月 北海道開発庁入庁
平成元年 6月 ケンブリッジ大学大学院修士課程修了
平成 3年 4月 北海道開発庁企画室開発専門官
平成 5年 9月 北海道開発庁退官
平成 7年 9月 伏木海陸運送(株)代表取締役社長
平成13年 6月 (社)富山県経営者協会副会長
平成15年 3月 高岡商工会議所副会頭
平成16年 4月 伏木海陸運送(株)代表取締役会長
平成16年 5月 旧高岡市長(～平成17年10月31日)
平成17年11月 新高岡市長(現在に至る)



2007年12月19日

政府は十八日、東京・永田町の首相官邸で、高岡市など全国五市の「中心市街地活性化基本計画」の認定書授与式を開き、橋市長らが認定を受けた。高岡市は本年度から五年間、財政上の優遇措置を受け、JR高岡駅周辺整備や世界文化遺産登録を目指す「近世高岡の文化遺産群」などを生かしたまちなか再生事業に取り組む。

認定は中心市街地活性化法に基づく措置。高岡市は、県内では富山市に続いて二カ所目で、これで全国の二十三市が認定を受けた。式で、福田康夫首相が「都市と地方のこれ以上の格差拡大を防ぎ、地方の活力を取り戻すため、地域の創意工夫を生かした取り組みが重要だ」とあいさつした。地域再生計画と構造改革特別区域計画の認定書授与式も兼ねており、首相は五市の代表者に認定書を手渡した後、橋市長ら三十九市町村の首長と握手を交わした。

高岡市の計画では、文化遺産を活用したまちなか交流人口の拡大などを目標に、官民で計八十五件、約二百億円の事業を行う。橋市長は式後、「スタート地点に立ったところだ。目標を達成し、民間の投資を呼び込みたい」と述べた。



2007年12月22日(北日本新聞社)

県と高岡市は二十一日、文化庁に世界文化遺産候補として「近世高岡の文化遺産群」の提案書を提出した。遺産群は昨年十一月に提出したが、継続審議となり、県と市が検討を重ねてきた。新たに商工業都市の象徴として山町筋や金屋町など十八の資産を追加して充実。城下町から商工業都市に生まれ変わり、町人の力で保存継承してきた経緯を強調し、あらためて国内暫定リスト入りを求めた。提案書によると、高岡は加賀藩二代藩主前田利長が築いた高岡城(現高岡古城公園)の城下町として発展。築城六年で廃城となった後は、瑞龍寺や勝興寺など宗教色が強くなり、さらに町人文化が花開く商工業都市に生まれ変わった。遺産群は高岡古城公園や瑞龍寺、勝興寺、前田利長墓所、山町筋、金屋町の基本資産六カ所と、木舟城跡や守山城跡、八丁道、高岡大仏などの関連資産十六カ所の計二十二カ所で再構成した。提案のコンセプトとして、金屋町で生まれた高岡銅器がパリ万博で紹介されるなど世界に羽ばたいた歴史や、市内小中学校の必修教科で銅器、漆器の継承に取り組んでいることも盛り込んだ。石井知事と橋高岡市長が文化庁で青木保長官に提案書を提出。遺産群と同じように今年一月に継続審議となった全国十九件が、今月末までに再提案する見込み。同庁は、県が九月に提案した「立山・黒部 - 防災大国日本のモデル」など新規の十三件を含めた計三十三件から、夏までに国内暫定リスト入りの候補地を選ぶ。



町人・市民の心意気示す

「高岡の宝を世界の宝に」を合い言葉に、市民、県民総ぐるみで盛り上げてきた世界文化遺産候補「近世高岡の文化遺産群」が二十一日、再提案された。石井知事、橋高岡市長は青木保文化庁長官に、保存状態の良好な建築物、遺産を守り続けた町人・市民の心意気を強くアピールした。長官に提案書を手渡した知事は「城下町から宗教都市、商工業都市になっており、日本の都市成立と発展を立証する典型的文化遺産」と力説した。就任直後の今年四月、勝興寺と瑞龍寺を視察した長官は「高岡の質の高い資産は十分承知している。素晴らしい遺産群であり、今後ユネスコの基準で、どのような価値があるか、検討する」と述べた。市長は「廃城後、明治維新の危機を町人・市民の努力で守り、現在も受け継ごうとしている。金沢など、ほかの城下町と違う。高岡の宝を世界の舞台にアピールしたい」と意欲を語った。六月に発足し、三千六百七十五の個人・団体が登録している「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」の南義弘会長は「高岡の遺産群が人類共通の宝になれば荣誉だ。さらに機運を盛り上げていく」と市民パワーを結集する決意だ。